

## 【第9分科会】情報センターとしての機能を推進するための取組

### 1 発表の要旨

『情報センターとしての機能を高める学校図書館運営～子供の情報活用能力を育む～ 善光幸代先生、伊藤健司先生』

昨年度の取組として、情報活用能力重点目標の作成、図書館に学習コーナーを整備、メディアセンター機能を活用した学習の研究（6年生総合的な学習で実践）を行った。成果として、インターネット活用と併せて図書を利用する子供が増加した。しかし、人数に対して図書が不十分であること、子供の情報探索能力・活用能力の育成について課題が残った。

#### （1）今年度の取組

子供自らが図書から必要な情報を見出し、それらを活用して課題解決を図ることができる図書館とするために、学校全体で以下の改善に取り組んだ。

①学習資料の選書、②利用指導オリエンテーション、③案内板やインデックスの掲示、④調べ学習アイテムの設置（自由に利用可能）、⑤他の図書館との連携、⑥図書館内外に学習コーナー設置

#### （2）今年度の成果

- ① 多くの子供が便利になったと意識するようになり、授業で図書館やパソコン室が調べ学習に積極的に活用。複数メディアを利用する子供が増加。
- ② 調べ学習に活用する本の貸し出し冊数が増加。
- ③ 6年生の9割が学習コーナーを利用した。

#### （3）今後の課題

- ・年間指導計画に基づいた計画的な図書館利用の推進。
- ・調べ学習の手順を明記した本校独自のパスファインダーの作成。
- ・視聴覚資料や電子メディアの併用等。

メディアセンターの特徴を生かしながら、子供たちと主体的な学びが成立する情報センターとして機能する図書館運営に努めたい。

『「言語活動の充実」をはかるための図書館教育のあり方～国語科と技術科との教科横断的カリキュラムを通して～ 北原大介先生』

#### （1）実践（研究）の概要

- ① 国語科の実践では、2年生を対象に自分のおすすめする本を選び、本の紹介文とキャッチ

コピーを書く授業を行った。本をおすすめする架空の相手を想定し、目的意識や相手意識をもって文章を練り上げた。

- ② 技術科の実践では、国語科で学習したことをうけて、「デジタル作品の設計・制作」からマルチメディアを活用してCM作りを行った。題材（単元）展開についても国語科と同様に、一度個別に制作したCMを友と見合う場面を設定することで、CMの中で一番伝えたいとするキャッチコピーがより効果的に伝わる工夫について考える授業を行った。

#### （2）成果と課題

国語科と技術科の授業の成果についてA生の姿を紹介。当初よりキャッチコピーの効果が高まったCMを完成させたA生の姿は、教科の枠を超えて追求する時間を確保できたことが要因として大きい。生徒にとっては、誰かが与えたものではなく、自分で選んだ本から考えることで、学習への意欲も追究することでキャッチコピーの効果を高めたいという気持ちが高まっていた。

課題としては、情報を発信する際に配慮すべき著作権問題（CM内で本の表紙を引用するため）があった。

こうした成果と課題を踏まえて今後も実践を継続させることが大切であるが、そのためには教科や単元をつなぐ橋渡しとして図書館の活用がとて有効であり、どの学校でも実践できる可能性を秘めている。

『図書館教育研究テーマ「人生と世界の窓をひらく図書館創り」3年生総合的な学習の時間テーマ「生き方を求めて」 羽田真史先生』

11月10日の公開授業の様子を発表。単元名「未来を開く読書」を実施。

#### （1）活動内容

- ① 自分の周囲の方から、読書することによって考え方や生き方が変わった本を紹介してもらい、何冊かを読んで感想を交流する活動
- ② 図書館の本の中から、自分を成長させてくれる本を選んで「次に読む本」のリストを作る活動

#### （2）単元展開

- ①事前授業  
市内の高校の協力を得て、「私を変えたこの1冊

高校生編」を作成。先生、家族、知り合いの方々への質問やインターネットで有名人について調べた情報から「一般編・有名人編」も作成。その中から、自分のなりたい姿になれる本を実際に選び、各自読書を行った。

読書した本について感想を発表し合う時間を設け、次に読む本を3冊探すために図書館の本棚からテーマに合っていそうな本の題名をメモする。

### ③ 本時

司書と教諭のブックトークを行い、テーマに合った本を選ぶ発想をさらに柔軟に広げていく。テーマ別のグループで、自分が選んだ本についてなぜその本を選んだのかを意見交換、最終的に次に読みたい本を選ぶ。

#### (3) 授業研究会の際に出た意見

- ・中学校で図書館を使うのが良い。
- ・3年生に「生き方を求めて」というテーマが合っている。
- ・テーマ別にグループに分かれているので、意見交換しやすい。
- ・内容が分からないまま本を探すのは難しい。
- ・タイトルで探す際に、小説が少なくなる。

## 2 協議内容

- ・インターネットを利用する場合、著作権の学習が前提として必要。学年によっては、この学習ができない。
- ・図書館の本で調べることの難しさを体験していくことが大事。そのために、たくさん足を運ぶことが必要。
- ・調べ学習というと、児童生徒はインターネット(パソコン室)に走ってしまう傾向があるが、学校としては「まずは図書館からスタートしよう」というスタイルを作ることが必要。そこから、見通しを持たせ、パソコン利用もしていく。併用することが大切。
- ・司書としてのスキルを身につけないと情報提供ができない。
- ・司書の限られた勤務の中で先生方に発信するところまで中々できない。
- ・本の情報も必ずしも正しいとは限らない。新しい本に更新していく必要がある。
- ・司書だけでは、情報をキャッチしにくいので、教科の先生方にも選書に協力してもらいたい。

## 3 指導助言

- ・新小学校学習指導要領にも「学校図書館、地域

の公共施設の利活用」という項目があり、学校図書館は、「学校教育において欠くことができない基礎的な設備」である。情報センターの面では、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成することが必要である。

- ・解説総則編から読み取れることとして、学校図書館が担っている目的の一つ目に、「如何に、本に親しませ、読書の世界へいざなうか」から、「如何に、学習活動の充実に寄与するか」、「如何に、学習内容を豊かにするか」へ。二つ目に、「図書館利活用＝読書の時間＝国語の時間」という意識から「どの教科等でも、図書館で学習ができる!」という意識へ。どちらもいかにシフトしていけるかが重要である。
- ・今回、レポート発表された学校は、各校とも原動力となる目的が明確であった。目的を達成するためには、学校が一丸となり組織的に取り組むことが大切である。